答辞

体育館に差し込む日差しが温かく、徐々に春を感じる陽気となりました。今日というこの良き日に、私たち一三六人はこの通い慣れた玉幡中学校を卒業します。校長先生をはじめ、私たちのことを見守って下さった先生方、来賓の方々、保護者の皆様、そして、これまで支えてくれた後輩のみなさん、本日は私たちのためにありがとうございます。卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

一年生の春。たくさんの期待と少しの不安を抱えて校門をくぐりました。慣れない制服を身にまとっての入学式。緊張しながら玉幡中学校の一員としての生活がスタートしました。中学校生活に慣れることに必死で、がむしゃらに走り抜けた一年間でした。

二年生。気が付けば先輩と呼ばれるようになっていました。これまで先輩方に頼りすぎていたことに気づき、改めて自分たちの未熟さを痛感しました。部活・合唱・委員会活動など、先輩として活動することが増え、試行錯誤しながらも、自分自身を成長させることができました。

三年生。私たちが玉幡中学校を引っ張っていく立場となりました。「学校を創ることは簡単なことではない。」最上級生としての在り方を常に探し続けてきました。最後の緑水祭、最後の部活動の大会、そして最初で最後の合唱祭。赤学年の仲間がいたからこそ、すべてが充実したものになりました。

今、こうして中学校三年間を振り返ってみると、様々な出来事がありました。それらすべてが、私にとって大切な宝物です。

革新。この言葉を今年度の生徒会テーマとし、玉幡中学校の伝統を守り、さらに進化させようと努力してきました。令和元年度、玉幡中学校は大きく変わりました。「轟〜音のように響け」のもと開催された緑水祭。新たな形で始まった文化の部。各学年の個性あふれる発表は玉幡中学校の歴史に残る素晴らしいものとなりました。体育の部。グラウンド中に響き渡る声。時にぶつかり合う事があったからこそ、仲間と繋がることができました。各クラスで奏であった合唱祭。順位に関係なく、仲間と一つの曲を創り上げることの喜びを感じました。

私たちがこうして、たくさんの経験をすることができたのは、多くの方の支えがあったからです。

在校生のみなさん。こんな頼りない私たちについてきてくれて、本当にありがとうございました。玉幡中学校のこれからを担っていくのは皆さんです。たくさんの課題に直面し、苦戦することもあるかもしれません。しかし、そばにはいつも仲間がいます。自分たちの力を信じて、玉幡中学校をさらに革新させてください。

先生方。時には厳しく、時には優しく指導をしてくださり、ありがとうございました。たくさんの先生方との出会いと別れを経験し、多くの先生方から指導をいただけたことで、私たちは大きく成長することができました。

私たちにとって一番大切な存在である家族のみなさん。どんな時も、私たちが決めた道を信じ応援してくれました。時には言い争ったり、反抗してしまったりすることもありましたが、そのすべてを受け止めてくれました。ほんとうにありがとう。これからは私たちが家族を守れるような強い人になります。

最後に、三年間をともに過ごした赤学年の皆。たくさん笑って、時には泣いて、同じ時間を共有してきました。赤学年だったからこそ乗り越えられたことがたくさんありました。本当にありがとう。これからはそれぞれが自分の決めた道を歩んでいきますが、決して「さよなら」ではありません。いつかまた最高の笑顔で会えることを楽しみにしています。

健伸鐘の音。懐かしい教室の香り。校舎内に響き渡る笑い声。玉幡中学校を去ると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。けれど、玉幡中学校での経験を活かし、私たちは未来を歩み続けます。

結びに、私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を準備してくださった皆様。これまで支えてくださった多くの方々に、心からの感謝を述べて答辞と致します。

令和二年三月十一日

卒業生代表　坂東瑞輝